

# 令和6年度 静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 遠州流域治水協議会

## 今年度の進捗状況や課題の対応策(概要版)

### 【目次】

- |                                 |      |
|---------------------------------|------|
| 1. R5年度時点の課題に対するR6年度の対応状況       | p. 1 |
| 2. R6年度フォローアップ調査で挙げられた主な課題と対応方針 | p. 2 |

# 1. R5年度時点の課題に対するR6年度の対応状況

- R5年度に挙げられた各課題に対して、適切に取組が進められていることを確認した。
- しかし、依然として課題の解消には至っておらず、R6年度も課題が継続している。

## ✓ 大規模氾濫減災協議会

	【R5年度時点】 主な課題	R5年度時点の課題に対するR6年度の対応状況
1	防災情報の更なる普及啓発	➤ 様々な機関(市民団体や民間企業)と連携し、防災情報の普及啓発を実施
2	要配慮者施設における 確実な避難に向けた取組	➤ 民間企業や構成員間で連携し、避難確保計画の作成支援や避難訓練を実施
3	構成員間の連携深化	➤ 構成員間で連携し、水防工法訓練を実施

## ✓ 流域治水協議会

	【R5年度時点】 主な課題	R5年度時点の課題に対するR6年度の対応状況
1	河川整備・森林保全など	➤ 残土の改良・有効利用を促進 ➤ 森林管理意向調査の実施や補助制度の創設による、林業従事者の減少や担い手確保に向けた取組を実施
2	水田貯留の推進	➤ 合意形成を図るため、地元説明会やアンケートを実施
3	住民への水害リスク周知	➤ 様々な機関(市民団体や民間企業)と連携し、水害リスクの周知を実施
4	要配慮者の避難確保に向けた取組	➤ 民間企業や構成員間で連携し、避難確保計画の作成支援や避難訓練を実施
5	立地適正化計画における 防災指針の記載	➤ 居住誘導区域では、防災・減災対策を計画的に実施する必要がある

## 2. R6年度フォローアップ調査で挙げられた主な課題と対応方針

### ✓ 大規模氾濫減災協議会

- R5年度から継続する課題に加え、「情報収集の多元化」、「防災情報の普及啓発」に関して課題が高度化している。頻発する水害により危機感が影響し、取組を進める中な芽生えた課題である。
- 民間企業や構成員間で連携して対応策を検討する必要がある。

【R6年度時点】 主な課題	対応方針
情報収集の多元化	➤ 民間企業や構成員間で連携し、避難トリガー情報の設定やシステム導入を検討
防災情報の普及啓発	➤ 様々な機関(市民団体や民間企業)と連携し、防災情報の普及啓発を実施

### ✓ 流域治水協議会

- R5年度から課題の傾向は変わらず、「R6年度も氾濫をできるだけ防ぐ」、「減らすための対策や被害の軽減、早期復旧」、「復興のための対策の取組」に関して課題を有する構成員が増加しており、各構成員の取組推進に対する意識が向上したと考えられる。
- 民間企業や構成員間で連携して対応策を検討する必要がある。

【R6年度時点】 主な課題	対応方針
残土処理	➤ 構成員間で連携し、残土の受け入れ先確保等を残土処理WG等で議論を実施
森林保全・治山施設の整備	➤ 森林管理意向調査の実施や補助制度の創設など、構成員で林業従事者の減少や担い手確保に向けた取組を実施 ➤ 森林の保水機能の確保に関して、構成員間で連携して解決策を議論
雨水貯留浸透施設の整備	➤ 民間企業や構成員間で連携し、水田貯留の推進に向けた地元説明会やアンケートを実施 ➤ 総合雨水対策計画を改定し、構成員で校庭貯留対象校を拡大
防災情報の普及啓発	➤ 様々な機関(市民団体や民間企業)と連携し、防災情報の普及啓発を実施
要配慮者避難確保計画・訓練	➤ 民間企業や構成員間で連携し、避難確保計画の作成支援や避難訓練を実施